

CASBEE札幌



評価結果

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)本郷通8丁目北マンション計画	階数	14
建設地	札幌市白石区本郷通8丁目北54番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	195 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	847 m ²	評価の実施日	2021年8月4日
建築面積	399 m ²	作成者	
延床面積	4,267 m ²	確認日	2021年8月4日
		確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	
BEE = 1.1 ★★★★☆	B+	30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★		標準計算	Q1 室内環境
		①参照値 100%	Q3 室外環境(敷地内)
		②建築物の取組み 86%	LR1 エネルギー
		③上記+②以外の オンサイト手法 86%	LR2 資源・マテリアル
		④上記+ オフサイト手法 86%	LR3 敷地外環境
		(kg-CO ₂ /年·m ²)	2-4 一次エネルギー消費量の評価 建物全体の[BEI][BEIm]= 0.91
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです			
2-5 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質	Q のスコア= 2.9	Q1 室内環境	Q3 室外環境(敷地内)
Q1 のスコア= 3.3	Q2 サービス性能	Q2 のスコア= 3.0	Q3 のスコア= 2.2
LR 環境負荷低減性	LR のスコア= 3.3	LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境
LR1 のスコア= 3.6	LR2 資源・マテリアル	LR2 のスコア= 3.0	LR3 のスコア= 3.1
3 設計上の配慮事項			
総合	A 省エネルギー		
断熱等性能等級4を満たすよう、断熱や開口仕様を設計し、温熱環境に配慮している。 節湯水栓やLEDなど省エネ性の高いものを採用し、省エネルギー性に努めている。 外壁や内装仕上げ材などには、更新間隔が比較的長いものを採用し、省資源となるようにしている。	断熱や開口仕様に配慮し、5-1等級4を満たしている。 節湯水栓やLEDを採用することにより、住戸全体の一次エネルギー消費量は省エネ基準を満たしている。		
B 省資源等	D 雪処理		
外壁や内装仕上げ材、空調・給排水管には、更新必要間隔が比較的長いものを採用している。 LGS工法の採用等により、部材の再利用可能性向上へ取り組んでいる。	ロードヒーティング設置を計画している。		
C 緑化			
省エネ基準を達成するよう断熱・設備仕様を設計し、建築設備から大気への排熱量を低減している。			
4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証 なし	BELS認証 なし	LEED認証 なし	
上記以外の認証・評価制度の利用 なし			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

(仮称)本郷通8丁目北マンション計画

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
配慮項目								
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.0	0.15	2.6	1.00	2.7
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	2.3	0.50	
1. 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20	
1.3 吸音					-		-	
2 溫熱環境				2.0	0.35	4.0	1.00	3.5
2.1 室温制御				3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	省エネ		5-1断熱等性能等級4	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					-		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	3.1	1.00	3.0
3.1 昼光利用				1.8	0.30	2.5	0.30	
1 昼光率				1.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口					-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ	住居部は、カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御		3.0	1.00	4.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-		-	
1 CO ₂ の監視					-		-	
2 嘸煙の制御					-		-	

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				2.5	0.40	2.8	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					-		-	
2 高度情報通信設備対応					-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)		天井高2.5m以上			-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					-		-	
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、取組みが標準以上		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.1	0.30		-	
1 車体材料の耐用年数		劣化対策等級3		5.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	外壁:耐用年数40年		5.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	床:フローリング20年、壁:ビニルクロス貼20年、天井:ビニルクロス貼30年		4.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源			3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要用途3種のうち2種類以上においてB以上で、Eは不使用		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源			2.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.2	0.20		-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-	
3 電気設備				1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり				-	4.2	0.50	
1 階高のゆとり		階高3m以上		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00			
1 空調配管の更新性			3.0	0.20			
2 給排水管の更新性			3.0	0.20			
3 電気配線の更新性			3.0	0.10			
4 通信配線の更新性			3.0	0.10			
5 設備機器の更新性			3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-			3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	5-1断熱等性能等級4	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.91 —	3.9	0.50		-	3.9
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-			
4.1 モニタリング	省エネ			-			
4.2 運用管理体制	省エネ			-			
集合住宅の評価			3.0	1.00			
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50			
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節湯水栓、節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60		-	2.9
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	LGS工法のため、躯体と仕上が容易に分別可能 内装材と設備が錯綜していない	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODPが0.01未満かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用している	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率=86%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 削減		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 削減		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency
CASBEE札幌



**重点項目
評価結果**

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要

建物名称	(仮称)本郷通8丁目北マンション計画	BEE	1.1	BEEランク	B+
建物用途	集合住宅				
延床面積	4,266.6 m ²				

2 重点項目への取り組み



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー	(最高点 23.5 最低点 7.4)		合計 16.7点 /23.5点
Q1 温熱環境	スコア 0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.2 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.8 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0
B 省資源等	(最高点 23.7 最低点 7.7)		合計 15.0点 /23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.8 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.2 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.5 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.5 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.6 /4.4
C 緑化	(最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 7.4点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3		
D 雪処理	(最高点 3.0 最低点 0)		合計 1.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数